資料編

資料-1 検討の経緯

		協議会	区民部会	事業者部会	庁内検討委員会
平成27年	10月19日		ヒアリング※1		
	10月22日		ヒアリング※1		
	11月4日	第1回			
	11月5日 ~			アンケート調査	
	12月28日				
	12月2日		第1回(まち歩き)		
	12月10日		第2回(まち歩き)		
平成28年	1月14日			第1回	
	1月20日				第1回
	1月26日	第2回			
	2月15日		第3回		
	2月15日		ヒアリング※2		
	2月18日		ヒアリング※2		
	2月25日		ヒアリング※2		
	2月29日		ヒアリング※2		
	3月3日			第2回	
	3月9日				第2回
	3月16日	第3回			

^{※1} 足立区機能訓練友の会、足立区視力障害者福祉協会、足立区パーキンソン病友の会、足立区ろう者協会、足立サンソ友の会、国際障害者年を進める足立の会、東京頸髄損傷者連絡会、日本オストミー協会へのヒアリング

^{※2} 子育て中の方へのヒアリング

資料-2 足立区を取り巻く状況

(1) 足立区の将来人口

平成27年9月15日に公表された足立区人口推計・中位推計によると、足立区の将来人口のピークは平成32年で、その後減少すると予測されました。また、概ね10年後の平成37年の年齢別構成は、平成22年を100とすると、年少人口は90、生産年齢人口は101、老年人口のうち65歳以上は107で、75歳以上人口は141になると予測されました。

足立区の将来人口推計

(平成 27 年を 100 とした場合の各年の値)

	平成 27	平成 32	平成 37	平成 42	平成 47	平成 52
	(2015)	(2020)	(2025)	(2030)	(2035)	(2040)
総数	100.0	101.3	100.8	99.8	97.2	94.4
0~14歳	100.0	96.3	89.9	82.8	77.6	74.8
15~64 歳	100.0	100.3	100.6	99.5	94.0	86.5
65 歳以上	100.0	106.5	106.8	109.1	115.7	125.0
75 歳以上	100.0	125.3	141.3	143.2	136.3	137.0
85 歳以上	100.0	151.6	205.1	251.3	275.2	261.6

出典:足立区将来推計人口·中位推計/平成27年9月15日公表

(2) 区の取り組みに対する重要度

足立区世論調査によると、平成24年以降防災対策への関心が高い状況にあります。また、交通対策が上位にあります。

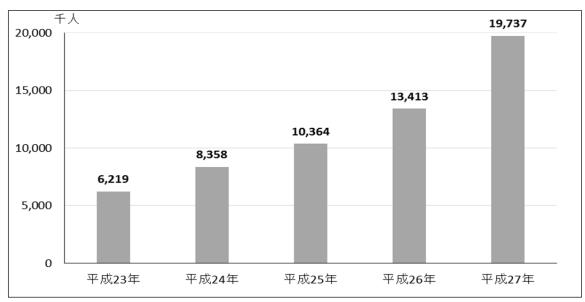
足立区世論調査による、今後の区の取り組みに対する重要度

	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
第1位	高齢者支援	交動策	防災対策 ——	▶ 防災対策 ——	▶ 防災対策
第2位	交通対策	高齢者支援	文通対策 🔪	治安対策 ——	▶治安対策
第3位	低所得者対策	防災対策	高齢者支援	文通対策 ——	▼ 交通対策
第4位	子育で支援	都市開発	都市開発	高齢者支援	資源環境対策
第5位	災害対策	子育て支援	住宅政策	保健衛生対策	高齢者支援

出典:足立区世論調査(各年9月に実施)

(3) 訪日外客数の状況

訪日外客数は増加傾向にあり、平成25年に初めて1,000万人を突破し、平成27 年は約2,000万人となり、僅か2ヶ年で倍増しました。



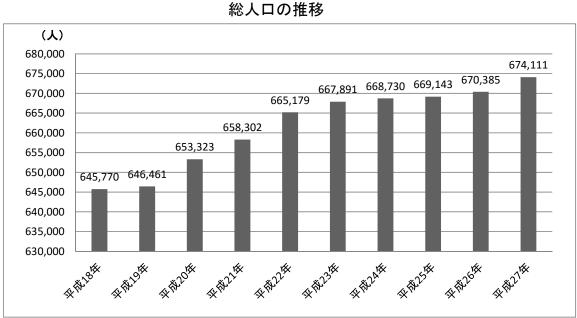
訪日外客数の推移

出典:日本政府観光局

(4)人口の状況

ア総人口

総人口は、平成27年1月現在で約67万人です。日暮里・舎人ライナーが開業した 平成20年から急増しましたが、平成23年以降は微増傾向にあります。



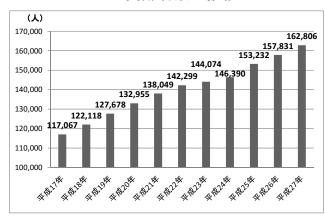
出典:数字で見る足立(経年表)/住民基本台帳。各年1月1日現在

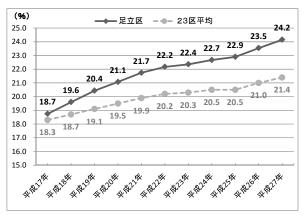
イ 高齢者人口

高齢者人口(65歳以上の人口)は、平成27年1月現在で約16万3千人であり、高齢化率は24.2%です。ともに増加傾向にあります。

高齢者数の推移

高齢化率の推移



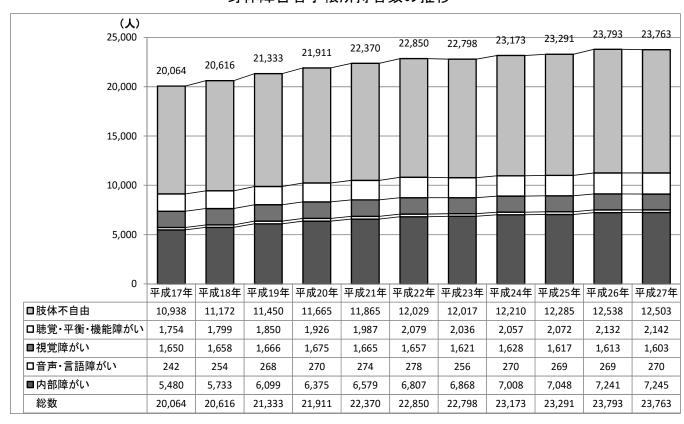


出典:数字で見る足立(経年表)/住民基本台帳。各年1月1日現在

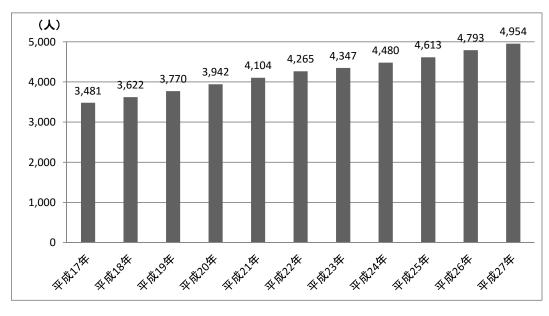
ウ 障がい者人口

身体障害者手帳所持者は平成27年4月現在で約23,800人です。増加傾向にあります。

身体障害者手帳所持者数の推移



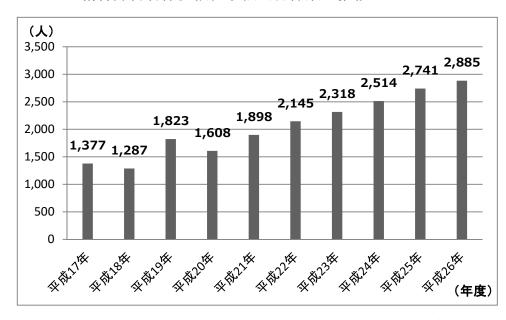
出典:数字で見る足立(経年表)/肢体不自由、聴覚・平衡胃機能障がい、視覚障がい、音声・言語障がい。 各年4月1日現在 愛の手帳所持者(知的障がい者)は、平成27年4月現在で約5,000人です。増加傾向にあります。



愛の手帳所持者数の推移

出典:数字で見る足立(経年表)/愛の手帳所持者。各年4月1日現在

精神障害者保健福祉手帳交付件数は、平成26年度現在で約2,900人です。平成21年度以降増加しています。



精神障害者保健福祉手帳交付件数の推移

出典:数字で見る足立(経年表)/資料:足立保健所こころとからだの健康づくり課

エ 外国出身の方

足立区に居住する外国出身の方は、2万3千人前後で推移しており、国籍別では 中国、韓国及び朝鮮、フィリピンが多い状況にあります。

足立区に居住する外国出身の方の推移

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
	23,443 人	23,059 人	22,282 人	22,516人	23,679 人
韓国及び朝鮮	37%	36%	36%	35%	33%
中国	36%	37%	36%	39%	40%
フィリピン	15%	15%	14%	14%	14%
その他	12%	12%	13%	12%	13%

出典:数字で見る足立(住民基本台帳/各年1月1日現在)

(5) 区内居住者の移動状況

ア 私事目的の移動状況

足立区総合交通計画によると、区内居住者の私事(スーパーなどへの買い物や病院などへの通院)目的の移動状況は、以下に示すとおりです。移動先は区内が多くなっており、北千住駅、綾瀬駅、西新井駅、竹ノ塚駅周辺がとくに目立ちます。(次ページ参照)

拠点的な駅周辺のバリアフリーが課題です。

区内居住者の私事目的の移動状況

拠点駅のポテンシャルへの課題

- ① 駅を中心とした生活圏域の形成
- 足立区居住者の私事目的の6~7割程度が足立区内を到着地としており、 その傾向は高齢者ほど高くなっています。更に、その約4割が自地域を 超えた移動となっています。自地域を超えた私事目的は、拠点駅周辺に 集中する傾向があるため、拠点駅を中心とした生活圏域の形成が伺えま す。
- 自地域内の私事目的の移動は、徒歩及び自転車利用が9割前後を占めて おり、歩行及び自転車の走行空間の形成が望まれます。

足立区居住者私事目的到着地の 足立区居住者私事目的の区内 区内·区外割合 地域間(小ゾーン)移動割合 0% 20% 40% 60% 80% 100% 20% 40% 60% 80% 100% 62% 38% 59% 41% 非高齢 非高齡 73% 27% 39% 高齢 高齢 61% ■ 区内 ■ 内外 ■ 小ゾーン内 - 小ゾーン間 出典:平成20年度東京都市圏パーソントリップ調査 出典: 平成 20 年度東京都市圏パーソントリップ 調査 足立区居住者私事目的地域間移動の着トリップ密度(着トリッフ酸=着トリッフ/地線臓) 年齢計 高齢者 広域・地域拠点 広域・地域拠点 ~7.5HJy7"/ha 出典:平成20年度東京都市圏パーソントリップ調査 出典: 平成 20 年度東京都市圏パーソントリップ調査

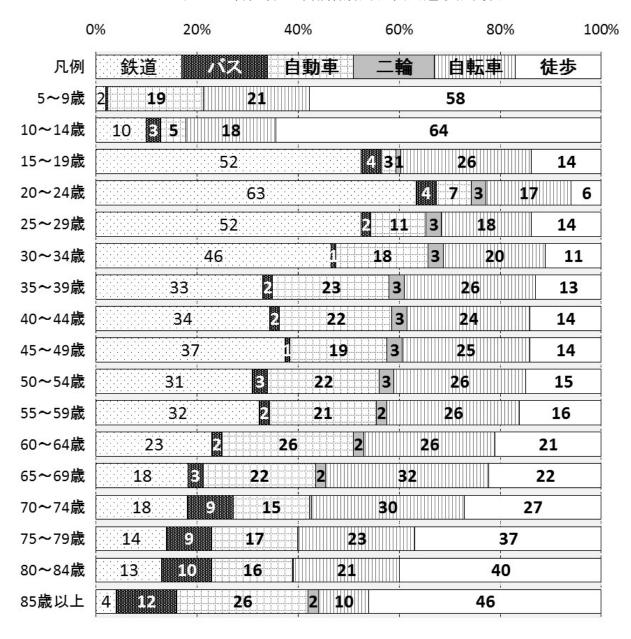
出典:足立区総合交通計画(16ページ)

イ 年齢階層別代表交通手段割合

足立区居住者の年齢階層別代表交通手段割合は、下図に示すとおり、年齢があがるにしたがいバス及び徒歩の利用割合が増加し、鉄道や自転車の利用割合が減少する傾向を示しています。

このため、地域内移動や歩道のバリアフリーの充実などが課題です。

足立区居住者の年齢階層別代表交通手段割合



出典:足立区総合交通計画/平成20年度東京都市圏パーソントリップ調査

(6) 足立区の地形や駅・道路などの状況

ア 足立区の概況

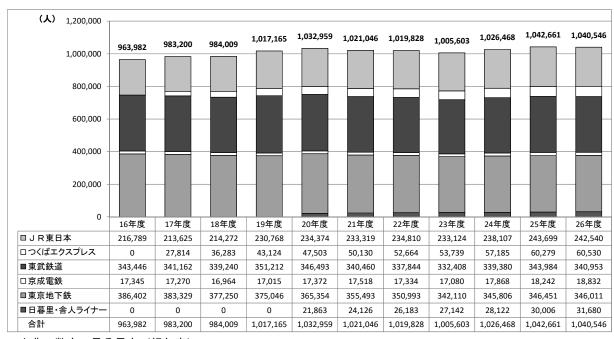
- ・23区の最北端に位置
- ・東は中川をはさんで葛飾区、西は隅田川をはさんで北区、荒川区、 北は埼玉県川口市、草加市、八潮市、南は葛飾区、墨田区、荒川 区に接する
- •区内は全体的に平らで、人工的に築かれた荒川の堤防や公園内の 丘以外に丘らしい高地はほとんどない
- ・面積は53.25 k㎡で、大田区、世田谷区についで広い
- ・人口は、674,111 人で、23 区で5位 (H27.1.1 現在。以下同じ)
- ・世帯数は、324,120世帯で、23区で4位
- 年少人口比率は、12.3%で、23区(平均11.3%)で4位
- ・生産年齢人口比率は、63.6%で、23区(平均67.3%)で23位
- ・老年人口比率は、24.2%で、23区(平均21.4%)で2位
- ・自然増減(※1)の対前年比は、△0.17%で、23区で21位
- 社会増減(※2)の対前年比は、0.92%で、23区で12位

※1:出生と死亡による人口の増減を自然増減という ※2:転出と転入による人口の増減を社会増減という

出典:足立区ホームページ(区の地勢・面積)、足立区基本構想審議会資料

イ 公共交通の状況

鉄道一日平均乗車人数は、平成26年度現在で約104万人です。平成23年度に やや落ち込みがあるものの、その後は増加傾向にあります。



鉄道一日平均乗車人数の推移

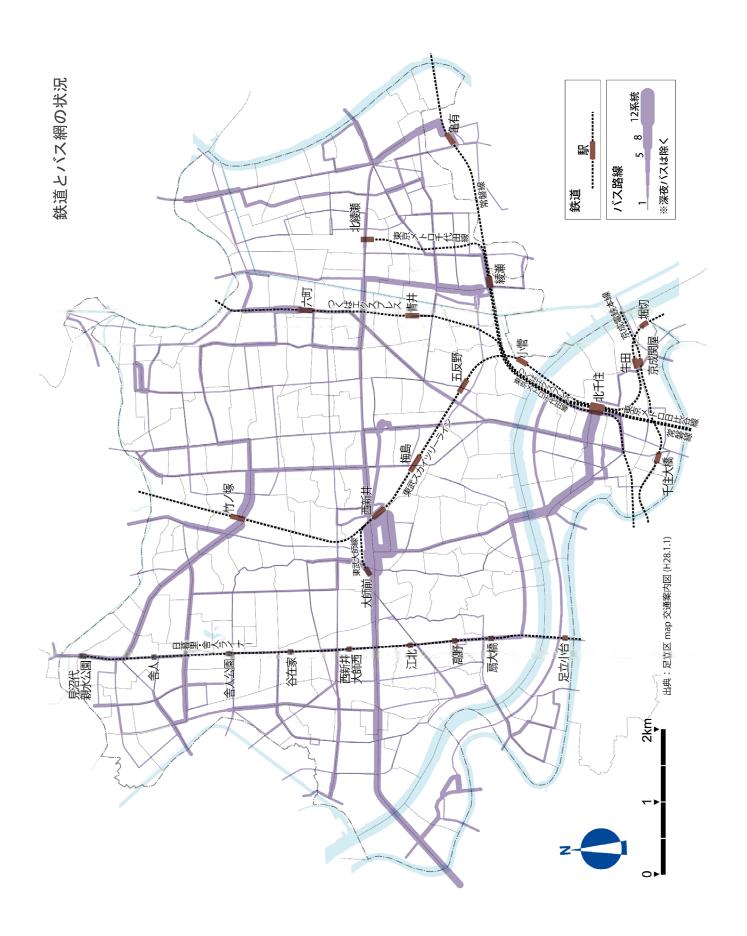
出典:数字で見る足立(経年表)

バスの系統数は、平成26年度現在で118系統あります。平成23年度以降横ばい傾向で推移しています。

(系統) 140 124 120 120 119 118 118 113 __112 120 102 98 100 ■東武バスセントラル 80 ■都営交通 60 ■国際興業 ■日立自動車交通 40 ■朝日自動車 20 ■新日本観光自動車 THE DEF W WY **张松**龙栎 W WAR ***************** , (年度)

バス系統数の推移

出典:数字で見る足立(経年表)



(7) 上位・関連計画

ア 足立区基本構想

足立区基本構想審議会・まちづくり専門部会(第3回)において、まちづくりに関する課題が示されました(平成27年10月23日)。以下に本計画に関わる部分を示します。

- ・今後、さらに増える高齢者が安心して暮らせるやさしいまちづくりが必要
- ・障がい者などの災害弱者が逃げなくても良いよう(自力での移動が困難な災害弱者を守るため)、不燃化・耐震化が必要
- ・エリアデザインなど、民間資本を活用し、優先順位や効率性を考えた開発が必要
- ・東西方向が弱い公共交通網の充実または補完が必要
- ・集客機能や文化・医療、企業誘致などの目的をもったまちづくりが必要

また、足立区基本構想審議会において、「新たな足立区の基本構想について」が 答申されました(平成28年2月)。

(背景) 今後、区が直面するであろう状況…さらに進展する人口減少・超高齢社会 ⇒以下に示すよう、まちの活力の低下

・社会を支える人の減少

・地域コミュニティの衰退

要介護高齢者の増加

区内経済の停滞

・税収減と扶助費の増加

(課題) 人口減少、少子・超高齢社会を支える活力の維持・確保と、変化し続ける 社会や課題に対応できる進化が必要

⇒区民と区政が、変化する状況にともに挑み、解決していく仕組みを構築

(将来像) 協創力でつくる 活力にあふれ 進化し続けるひと・まち 足立 (将来像を構成する要素)

・協創:変化し続ける社会や課題に、足立区を挙げて対応し解決していく ための根本となる仕組み

・活力:持続可能な社会を支えるための力であるとともに、進化していく ためのエネルギー

・進化 : 今後起こりえる様々な変化に柔軟に対応し、課題を克服し、危機 的状況を乗り越えること

(将来像の実現に向けた4つの視点(基本的方向性))

・ひと : 多様性を認め合い、夢や希望に挑戦できる人

・くらし :人と地域がつながる 安全・安心なくらし

・まち: 真に豊かな生活を実現できる 魅力あるまち

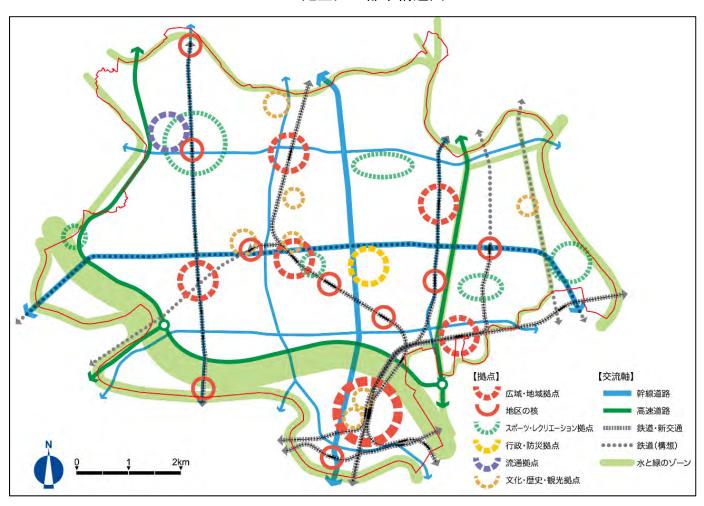
・行財政 :様々な主体の活躍と まちの成長を支える行財政

イ 足立区都市計画マスタープラン

足立区都市計画マスタープランでは、都市構造を構成する拠点のうち、広域拠点として北千住駅周辺、地域拠点として綾瀬駅周辺、六町駅周辺、西新井駅周辺、竹ノ塚駅周辺、江北駅周辺の5つを位置付けています。各拠点は、商業・業務、住宅などの機能の充実を図るとともに、相互のネットワークを図るとしています。

また、行政・防災拠点として足立区役所周辺を位置付けています。

足立区の都市構造図



出典:足立区都市計画マスタープラン (平成 18年3月策定)

注:同プランは平成28年度に改定の予定

ウ 足立区総合交通計画

平成23年12月に策定された足立区総合交通計画は、概ね20年後の社会の進展を見据え、環境やユニバーサルデザイン、交通弱者などの視点に立ち、公共交通施策、自転車交通施策、交通結節点施策、交通需要管理施策等に関して整備方針を示しています。

足立区全域で展開する都市交通施策

施策体系	項目	内容
公共交通施策	広域移動の支援	地下鉄8号線(有楽町線)の整備促進、メトロセブンの整備促進
	高齢者等の外出支援	公共交通導入空間の確保 (都市計画道路の整備)、 デマンド型の交通サービスの提供
	快適な公共交通環境整備	低床化バスの導入、バス接近情報の提供
	既存路線バスの利用促進	走行環境の整備、バス停の環境整備
自転車交通施策	自転車走行環境の充実	自転車走行環境整備
	安全な自転車運転の徹底	交通安全教室の継続
	自転車駐車場の整備	区営自転車駐車場の改修
交通結節点施策	駅及び駅周辺のバリアフ リー化の促進	違法駐輪対策の継続、区営自転車駐車場の適正な 運営、歩行者等の回遊性の整備
	円滑な乗り継ぎの実現	駅におけるバス系統案内の充実
	物流貨物車の適正な荷捌きの実現	荷捌き駐車場の確保
交通需要管理 施策等	不要不急な自動車利用の 抑制	ノーマイカーデーの実施、パークアンドライド (※1)の検討、企業保有車の持ち帰り自粛、自 転車の利用促進、効率的な自動車利用の推進
	運輸部門での環境に対す る意識醸成	エコドライブの普及
	環境対応車への転換	環境に優しい庁有車の導入、エコステーション (※2)の整備促進

※1:中心市街地に直接向かう車を少なくし、道路渋滞を抑制するために、鉄道駅付近に自動車を駐車してもらい、鉄道に乗り換えて向かってもらうこと

※2:自動車にガソリンや軽油を給油するガソリンスタンドのように、低公害車向けにメタノールや天然ガス の供給、充電を行う設備を備えた施設

出典:足立区総合交通計画(平成23年12月策定)

エ エリアデザイン

エリアデザインとは、まちの特徴・魅力や 求めるべき将来像などをエリアデザインとし て、区内外に広く発信することで、足立区の イメージアップや、地域の活性化を図る新し いまちづくりの取り組みです。

現在7つのエリアが位置付けられていますが、各エリアにおいては、大規模な区有地等を活用し、民間活力によるまちの整備を積極的に進めていくとしています。



各エリアの動向

名称	内容
花畑エリア	・文教大学進出が決定。開設時期は平成32年前後 ・大型ショッピングモールも開業(平成26年) ・河川、公園などの周辺環境の再整備も計画 ©東京オリンピック時に花畑団地が誕生、2020年のオリンピック・パラリンピックに 合わせて花畑エリアが生まれ変わります。
六町エリア	・TX六町駅の駅前に3,600 ㎡の区有地を所有 ・隣接する駅前広場、公園と一体的活用可能 ⑤都心へのアクセスが便利なTXと周辺地域とをつなぐ新たな交通手段の充実や、まちに活力を与える民間施設を誘導し、区内外からの来街者の増加を図り、六町駅の知名度向上とまちの活性化を進めます。
綾瀬 エリア	・駅前顔づくりを検討 ・子ども家庭支援センター跡地構想の再構築 ③都心へのアクセス性が高い綾瀬駅周辺で急激な住宅開発が進むまちの現状を捉え、 綾瀬小学校等周辺公共施設を含めた駅前のあるべき姿を構築し、まちの将来像の実 現に向けたまちづくりを展開します。
千住エリア	・西口駅前の再開発、5つの大学誘致とまちの魅力が向上 ・働く女性が住みたいまちランキングも上位 ◎足立区のシンボルとして、さらなる大学連携を進めるとともに、エリア全体の賑わいの創出や魅力的資源の有効活用により、足立区のイメージアップに努めます。
西新井 ・梅島 エリア	 ・西新井駅西口の駅前広場整備に着手 ・駅東西を結ぶ連絡通路計画 ◎駅や周辺施設の再整備の動向を注視しつつ、都営住宅跡地の有効活用、未整備の西新井公園計画の再構築、東武線をくぐる南北線構想の実現など、まちづくりの機運を高めます。
江北エリア	・区内初の大学病院誘致に着手。東京女子医大東医療センター移転の覚書を締結 ・エリア内に多くの大規模用地が創出 ©大学病院を核としながら、統合による小中学校跡地、都住建替による創出用地、江 北給水場の上部利用などに、新たな魅力や活力を創出する施設を誘導し、区の新た な拠点となるまちづくりを展開します。
竹の塚 エリア	・鉄道高架化の工事が進行中 ・駅西口駅前広場や駅前道路など基盤整備に着手

出典:足立区ホームページ・エリアデザイン計画(平成27年7月時点)

資料-3 区民や事業者の意見

ア 障がい者団体へのヒアリングの結果の概要

重点整備地区の選定や生活関連施設の検討等を行うため、どのような経路で、どのような施設を利用しているかなど、基礎的な情報を得ることを目的に、ヒアリングを実施しました。

平成27年10月19日、22日開催

ヒアリング場所は、竹の塚障がい福祉館

対象団体(50音順)

- ・足立区機能訓練友の会
- ・足立区パーキンソン病友の会
- ・足立サンソ友の会
- ·東京頸髄損傷者連絡会
- ·足立区視力障害者福祉協会
- ・足立区ろう者協会
- ・国際障害者年を進める足立の会
- ・日本オストミー協会

障がい者団体へのヒアリングの結果の概要(その1/2)

項目	意見などの概要/意見の発信団体
よく利用する施設 <公共施設の場合>	・竹の塚障がい福祉館、障がい福祉センターあしすと、ギャラクシティ、 区役所、エル・ソフィア/各団体
よく利用する施設の 良い点、悪い点	・庁舎に音響装置が付いた/足立区視力障害者福祉協会・筆談ボードがあると良い/足立区ろう者協会・竹ノ塚駅前の商店街は、自転車の駐輪が多く、車道に出て通行するしかない。はみ出し荷物も多い/足立区機能訓練友の会
よく利用する施設の 悪い点の解決策	・オストメイト対応トイレ内には、パウチ等が置ける場所と衣服を掛けるフックを付けてほしい/日本オストミー協会
よく利用する施設ま での移動手段	・病気になって以来、怖くて電車には乗っていない/足立区機能訓練友の会 ・バスをよく利用する/国際障害者年を進める足立の会
道路、バス、鉄道の 良い点、悪い点	・バスの車外へのアナウンスが徹底されていない/足立区視力障害者福祉協会・トイレ内に緊急警報のフラッシュライトを設置してほしい/足立区ろう者協会・車内での車椅子の固定の仕方が安全でない、前後に動くことがある/国際障害者年を進める足立の会
横断歩道、交差点の 利用で困っているこ と	・歩道と車道の段差が2cm ないと歩道と車道の区別ができない。縁石の黄色のラインは手掛かりにならない/足立区視力障害者福祉協会 ・西新井のイオンの前の道路は、道が狭くて大きいバスも通り、怖い (あしすとへ行く道、大正通り)/足立区機能訓練友の会

つづく

障がい者団体へのヒアリングの結果の概要(その2/2)

項目	意見などの概要/意見の発信団体
連続的なバリアフ リー化の必要性	・最低限、最寄り駅、最寄りのバス停から公共施設まで、視覚障害者誘 導用ブロックを設置してほしい/足立区視力障害者福祉協会
重点的な取組が必要だ と思う地域	・北千住、北千住の東口、綾瀬、五反野、区役所、西新井、竹の塚/各 団体
心のバリアフリーの 必要性	・自転車や看板が視覚障害者誘導用ブロックの上に置かれている/足立 区視力障害者福祉協会 ・相手に質問ができないなど自分自身がバリアを作る/足立区ろう者協 会
	・自転車がフルスピードで走り、止まってくれない。押して渡れという表示がほしい/国際障害者年を進める足立の会 ・ヘルプマークを周知してほしい/足立区パーキンソン病友の会

イ 第1・2回区民部会(まち歩き点検等)

区役所及びその周辺の道路や建築物について、バリアフリーの状況を見学し、これを日常生活でよく利用する街なかや建物に存在するバリアまたはバリアフリーの程度と比較してもらい、問題や課題、解決方法を浮き彫りにするために実施しました。

平成27年12月2日、10日開催

意見交換の場所は、足立区役所 南館4階作業室

参加団体(50音順)/延べ参加人数32名

- ・足立区機能訓練友の会
- •足立区社会福祉協議会
- •足立区視力障害者福祉協会
- ・足立区手をつなぐ親の会
- ・足立区まちづくり推進委員会
- ・足立区ろう者協会
- ・足立サンソ友の会
- ・こども支援専門部会
- ・日本オストミー協会

- ・足立区肢体不自由児者父母の会
- •足立区女性団体連合会
- •足立区地域保健福祉推進協議会
- ・足立区パーキンソン病友の会
- ·足立区民生·児童委員協議会
- ・足立区老人クラブ連合会
- ・国際障害者年を進める足立の会
- ·東京頸髄損傷者連絡会

区民部会(まち歩き点検等)の結果の概要

	項目	主な意見
道路	歩道	・インターロッキングの舗装は車椅子だとガタガタする・車椅子の場合、なるべく歩道と車道の段差はない方が良い・視覚障がい者にとって、歩道と車道の段差は必要・狭い歩道では、歩道の中央に視覚障害者誘導用ブロックを設置してほしい
等 (屋 外	横断歩道・信号機	・歩行者用の青時間が短い信号がある・音響信号を設置してほしい・エスコートゾーンを設置してほしい
)	バス・タクシー のりば	・バスのりばにベンチがあると良い・バスが歩道に横付けできるようにしてほしい・バスのりばを案内する音声案内があると良い・タクシーのりばを案内する視覚障害者誘導用ブロックがない
	出入口	・車椅子やベビーカーがスムーズに通行できるようにしてほしい ・視覚障害者誘導用ブロックは黄色にしてほしい
施	受付・待合場所	・カウンターに車椅子が接近できるようにしてほしい・カウンターには、傘や杖を掛けるフックがあると良い・車椅子用の記載台を設けてほしい・待合場所には、車椅子のスペースを設けてほしい・ベンチの近くにベビーカーを置くスペースがほしい
設 (屋内)	トイレ	・荷物を置く棚や杖を掛けるところがほしい・男女トイレ、だれでもトイレの配置を案内する音声案内があると良い・男性用トイレにベビーチェアを設置してほしい・大人用のおむつ替えのベッドを設置してほしい
	エレベーター	・エレベーターを案内する視覚障害者誘導用ブロックを設置してほしい・複数台の車椅子やベビーカーが同時に利用できるエレベーターがあると良い
-	駐車場	・車椅子が後方から乗降する車もあるので、広い乗降スペースがあ ると良い

ウ 事業者部会メンバーへのアンケート調査

重点整備地区の選定や生活関連施設の検討等を行うため、バリアフリー化についての情報を得ることを目的に、アンケート調査を実施しました。

平成27年11月5日~12月28日実施

アンケート方法は、第1回協議会で仕様(様式)を示し、個別にFAXまたは電子メールにより返信

資料編

回答者(団体)

- •東日本旅客鉄道株式会社
- •京成電鉄株式会社
- •首都圈新都市鉄道株式会社
- ・東武バスセントラル株式会社
- ・京成バス株式会社
- •国際興業株式会社

- •東武鉄道株式会社
- •東京地下鉄株式会社
- ・東京都交通局(日暮里・舎人ライナー)
- •朝日自動車株式会社
- •株式会社新日本観光自動車
- ・東京都交通局(都営バス)
- ・一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会
- •警視庁千住警察署

- •警視庁西新井警察署
- ・警視庁竹の塚警察署
- 警視庁綾瀬警察署
- •国土交通省関東地方整備局東京国道事務所
- 東京都建設局第六建設事務所東京都建設局東部公園緑地事務所
- •足立区都市建設部 (交通対策課・工事課・街路橋りょう課・みどり推進課・公園管理課)

事業者部会メンバーへのアンケート調査の結果の概要(その1/2)

項目	主な回答
バリアフリーの取り 組みの考え方や方針	・バリアフリー法および関係省令等に基づき、地域の要請及び支援の 下、鉄軌道駅の構造等の制約条件を踏まえ可能な限りの整備を進め ている
	・ノンステップバスの積極的な導入
	・乗務員教育においてのバリアフリー対応
	・交通安全のバリアフリーの推進
	・重点整備地区内の特定道路について優先的に整備を進めていく
	・全ての施設において円滑に利用できるようにするため、定められた「整備基準」を踏まえ、利用者の視点からより高い水準で公共事業 の整備を進めていく
バリアフリーの取り 組みの実績 (特に足立	・エレベーター、内方線付点状ブロック、多機能トイレ、視覚障害者 誘導用ブロック、段差解消、音声案内の設置、多言語表示
区内で) 	・ノンステップバス、バス停の上屋、ベンチ、バス接近表示装置、バ ス車内及び営業所の窓口には筆談具を設置
	・ゆとりシグナル信号(青信号残り時間。赤信号待ち時間を表示提供)、 横断歩道の整備、弱者感応機(視覚障がい者用)付信号機等の設置

つづく

事業者部会メンバーへのアンケート調査の結果の概要(その2/2)

項目	主な回答	
バリアフリーの取り 組みの計画や予定 (特 に足立区内で)	 ・段差解消、多機能トイレ、内方線付ブロック、エレベーター等整備 ・ノンステップバスの導入、バス停の上屋、ベンチ、バス接近表示装置の設置 ・信号機のバリアフリー化、横断歩道の整備、歩道上の二輪車等、違法駐車の指導取締まり ・道路・公園の新設・改築等に伴うバリアフリー化、公園内の視覚障害者誘導用ブロックの設置や遊戯広場には障がい者でも利用可能な遊戯の設置 	
バリアフリーの取り 組みを進めていく上 での課題	 ・構造上の制約、国・都・区からの補助の充実、予算 ・既設バリアフリー設備におけるスパイラルアップの検討 ・道幅が狭い等により車椅子乗降のためのバスのスロープ板を取り出せない箇所が一部存在 ・管理者・事業者同士の連携 ・地域住民の理解、公園利用者のマナー改善 	
バリアフリーに関す る広報活動や啓発活 動の実施	・マナーに関するポスター掲示、 ・ホームページ、時刻表等にバリアフリーマップを掲載 ・優先席付近には優先席の案内とともにヘルプマークの案内を掲示 ・バス乗り方教室の実施	
バリアフリーに関す る内部研修等の実施	・サービス介助士の取得 ・車椅子の対応方法の研修、バリアフリー研修の実施	

エ 子育て中の方へのヒアリングの結果の概要

重点整備地区の選定や生活関連施設の検討等を行うため、子育て中の方に対し、 お子さんと、どのような経路で、どのような施設を利用しているかなど、基礎的な情報 を得ることを目的に、ヒアリングを実施しました。

平成28年2月15日、18日、25日、29日開催

ヒアリング場所は、区役所、子育てシェアハウス OHANA、子育てサロン千住、子育てサロン綾瀬、子育てサロン上沼田、子育てサロン西新井、子育てサロン竹の塚

参加者

- ・区民部会メンバー
- ・子育てサロン参加者

子育て中の方へのヒアリングの結果の概要

項目	意見などの概要
よく利用する施設 <公共施設の場合>	・竹の塚保健総合センター、竹の塚図書館、総合スポーツセンター、 ギャラクシティ、梅田図書館、エル・ソフィア、生物園など ・最寄りの子育てサロンや児童館、地域学習センター、公園など
よく利用する施設の 良い点、悪い点	 ・双子のベビーカーは、開き戸だと狭くて入れないし、片手で開けて押して入るのは難しい。小さいエレベーターだと利用できない ・おむつ替え、授乳ができるかが大事。母乳でなければミルクを作るスペースがないと大変 ・男性用トイレにおむつ替えがなく、不便 ・病院は空きの診察室を利用して授乳できる ・ギャラクシティは思いっきり屋内で遊べて良い ・駐車場がない施設は行けない ・トイレが近くて、子どもが騒いでも平気なフードコートが良い ・ベビーチェアのない公園のトイレは行きにくい。公園のトイレは怖くて使えない。小さい子のための遊具がない公園がある ・商店街の放置自転車は、子どもが触ってひっくり返しそうになる
よく利用する施設の悪い点の解決策	 ・公園のトイレを洋式にしてほしい、明るくしてほしい ・飛び出しを防ぐためと変な人が入ってこないように、柵を設置した方が良い ・双子のベビーカー対策や、男性による子育て対策が必要
よく利用する施設ま での移動手段	・自転車が多い。そのほか徒歩、ベビーカー、自動車
道路、バス、鉄道の良い点、悪い点	 ・子ども(6歳)は一人で歩かせない。被害者にも加害者にもなる ・小学校まわりの歩道はガードレールで出られないようになっている。子どもの飛び出しの防止になるので良い ・はるかぜは良い路線だが、ベビーカーだと乗りづらい ・バスの中で子どもは立たせると不安定で、転んでけがをしても困るので、座らせる ・鉄道の幅広改札は駅員のそばにあることが多いが、そこは人が溜まりやすいため、ベビーカーで通ることができない ・凸凹の歩道や排水溝の網、水はけのために傾いている歩道は、ベビーカーでは通りにくい ・自転車は子どもを乗せると重いし不安定なので、車道での移動は怖い。歩道は広い方がいい、歩道を自転車で通行したい
横断歩道、交差点の利用で困っていること	・子ども目線だと信号がわかりづらい・信号の押ボタンについて、小学1年生でまだ漢字が読めず、青にならないので、ずっと待っていたことがあった
心のバリアフリーの 必要性	 ・エレベーターの係が待っている車椅子やベビーカーを見つけると、他をきちんと断って乗せてくれる大型店がある ・妊婦マークでよくなってきているが、外国ではドアを開けてくれるのは当たり前だった ・スピードを出す自転車が多い。すぐにはよけられない ・ベビーカーで電車に乗ると周囲の目が気になる ・大半の母親は自ら声を出すのが難しい